

## 日本製紙株式会社岩沼工場の公害防止に関する協定書

昭和 47 年 7 月 25 日  
昭和 49 年 5 月 1 日  
全面改定平成 3 年 4 月 23 日  
平成 7 年 8 月 30 日  
全面改定平成 11 年 8 月 1 日  
平成 13 年 7 月 16 日  
平成 14 年 6 月 10 日  
平成 15 年 4 月 30 日  
全面変更平成 16 年 3 月 16 日  
平成 17 年 4 月 14 日  
平成 20 年 3 月 26 日  
平成 23 年 7 月 1 日  
平成 25 年 3 月 19 日

宮城県、名取市、角田市、岩沼市、柴田町及び亘理町（以下「甲」という。）と日本製紙株式会社（以下「乙」という。）とは、公害防止条例（昭和 46 年宮城県条例第 12 号）第 11 条の規定に基づき、乙が岩沼市大昭和 1 番 1 号に設置する岩沼工場（以下「事業所」という。）について、次のとおり公害防止に関する協定を締結する。

### （目的）

第 1 条 この協定は、事業所の操業に伴う公害の発生を防止し、環境負荷の低減を図るとともに、乙の環境保全活動を促進し、健全で快適な環境を確保することを目的とする。

### （事業者の責務）

第 2 条 乙は、事業所の操業に当たっては、この協定に定める規定を遵守するとともに、最善の公害防止対策の実施に努める。

### （環境関連法令の遵守）

第 3 条 乙は、環境関連法令を遵守する。

### （大気汚染防止対策）

第 4 条 乙は、大気汚染防止のため、事業所における別表第 1 に掲げるばい煙発生施設等から排出される排出ガスについて、別表第 2 に掲げる基準を遵守する。

2 乙は、宮城県大気汚染緊急時対策要綱（昭和 51 年 6 月 12 日施行）に基づき、宮城県（以下「県」という。）が行う施策に協力する。

3 乙は、ばい煙発生施設に、硫黄酸化物排出濃度、窒素酸化物排出濃度及び燃料使用量等にかかわる自動測定装置を設置し、県が行うテレメート化に協力する。

4 乙は、毎年度始めに当該年度における燃料使用計画を甲に報告する。

5 乙は、設備又は作業工程から発生する炭化水素については、適切な措置によりその減少に努める。

### （水質汚濁防止対策）

第 5 条 乙は、水質汚濁防止対策のため、事業所から排出される排水について、別表第

3に掲げる基準を遵守する。

(地下水汚染防止対策)

第6条 乙は、地下水汚染防止対策のため、適切な措置を講じる。

(土壌汚染防止対策)

第7条 乙は、土壌汚染防止対策のため、適正な措置を講じる。

(騒音・振動防止対策)

第8条 乙は、事業所から発生する騒音・振動を防止するための適切な対策を講じ、事業所敷地西境界線において別表第4に掲げる基準を遵守する。

(悪臭防止対策)

第9条 乙は、事業所から発生する悪臭を防止するため、適正な対策を講じ、敷地境界において別表第5に掲げる基準を遵守する。

(化学物質対策)

第10条 乙は、事業所の操業に伴い使用又は副生する化学物質(以下「化学物質」という。)による環境汚染を未然に防止するため、その性状等を製品安全データシート等により把握し、適正な管理を行うとともに、有害性が確認されている化学物質については、代替品への切替え等、環境への排出抑制に努める。

(廃棄物対策)

第11条 乙は、事業所の操業に伴って生じる廃棄物について、再生利用等による減量化に努めるとともに、二次公害の発生を防止するため、自らの責任において適切な処理を行う。

(ダイオキシン類対策)

第12条 乙は、ダイオキシン類対策として事業所から排出される排出ガス等について、別表第6に掲げる基準を遵守する。

(関連事業者に対する責務)

第13条 乙は、乙以外の者が事業所内で作業する場合にあっても、公害防止についてこの協定に定める事項に準じた措置を講じられるように管理しなければならない。

(測定、報告及び公表)

第14条 乙は、別に定める環境負荷項目等の測定を行い、その結果を記録及び保存し、定期的に甲に報告するとともに、一般に公表するよう努める。

(公害発生時等の措置等)

第15条 乙は、事業所の操業又は施設の故障、破損その他の事故若しくは気象条件等の悪化により公害が発生したとき、又はそのおそれがあると甲若しくは乙が判断したときは、直ちに操業の短縮、停止その他住民への通報等必要な措置を講じ、また、発生原因の排除に努めるとともに、その状況を甲に速やかに報告する。ただし、環境関連法令に定めのある場合は、甲への報告を省略することができる。

2 前項の公害が発生した場合、甲及び乙は協力して調査を行い、その原因が乙の責めによると認められるときは、乙は、誠意をもって損害の賠償等適切な措置を講じる。

(報告及び立入調査)

第16条 甲は、この協定の実施に必要な限度において、乙に対し、報告を求め、又はその職員及び甲が必要とする者を同行して事業所内に立入調査することができる。

(施設の設置等の協議)

第17条 乙は、公害防止施設及び公害の発生に関係ある主要施設の新設、増設又は変更を行おうとするとき、並びに化学物質を追加使用しようとするとき（以下「新設等」という。）は、事前に甲と協議する。

2 前項の規定にかかわらず、前項の新設等のうち、周辺環境への影響が維持又は低減されるものについては、乙の報告をもって前項の事前の協議に代える。

(景観の保全等)

第18条 乙は、構内緑化、環境の美化及び景観の保全を積極的に推進する。

(環境保全施策への協力)

第19条 乙は、この協定に定めるもののほか、甲が行う環境保全のために必要な指導、調査、研究、情報公開等の施策に協力する。

(環境保全活動の推進等)

第20条 乙は、環境情報の公表や事業所の公開等、地域住民に対する環境コミュニケーションを積極的に推進する。また、環境マネジメントシステム等の環境保全活動を推進する。

(違反時の措置)

第21条 乙がこの協定に定める事項に違反した場合は、甲は、乙に対して必要な指示を行い、乙はこれに従う。

(協定細目)

第22条 この協定に定める事項の実施については、甲乙協議の上、別に協定細目を定める。

(その他)

第23条 この協定に定める事項について疑義が生じたとき、この協定に定める事項を変更しようとするとき、又はこの協定に定めのない事項について定める必要が生じたときは、その都度甲乙協議して定める。

(協定の廃止)

第24条 甲と乙が、平成11年8月23日に締結した「日本製紙株式会社岩沼工場の公害防止に関する協定」は、廃止する。

この協定を証するため、本書7通を作成し、甲乙記名押印の上、各自その1通を所持する。

甲 宮城県知事

名取市長

角田市長

岩沼市長

柴田町長

亘理町長

乙 日本製紙株式会社岩沼工場長

別表第1（第4条関係）

## ばい煙発生施設

施設名	項目	煙突高 (m)	使用燃料 (助燃燃料)	燃料の 燃焼能力 (t/h)	最大排出ガス量(湿) (m <sup>3</sup> N/h)	排出温度 (°C)	排出速度 (m/s)
2号重油ボイラー		60	重油	19.2	300,000	60	19.0
3号回収ボイラー	60	黒液	29.2	192,000	65	11.0	
		黒液 重油	21.9 3.4	200,000		12.0	
		重油	8.0	133,000		7.0	
4号石炭ボイラー	60	石炭	31.7	300,000	54	15.3	
		石炭 下水汚泥 PCカーボン	※-1 29.99 1.0 1.2	300,000		15.3	
		石炭 重油	19.8 7.1	300,000		15.3	
		重油	7.1	122,000		6.0	
6号新エネルギー ボイラー	100	石炭	25.7	291,000	60	18.6	
		チップ タヤ 硬質プラスチック RPF 石炭 木屑 下水汚泥 PCカーボン	※-1 8.0 1.4 2.5 9.5 3.0 0.1 0.37				
スラッジ焼却炉		30	硬質プラスチック RPF (重油)	490kg/h	65,700	183	17.0
石灰焼成炉		27	重油	1.21	54,000	74	15.5
一般ゴミ焼却炉		7.9	(灯油)	—	2,100	600	16.0
備考							
1 数値は、最大能力時におけるものとする。							
2 一般ゴミ焼却炉は、硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじんの各排出基準を適用しない。							
※-1 4号石炭ボイラー及び6号新エネルギーボイラーの燃料使用割合は燃料需給により変動する。ただし、PCカーボンは使用上限の量とする。							

別表第2（第4条関係）

1 硫黄酸化物排出基準

項目	協定値
硫黄酸化物年間許容排出量（t／年）	1,500
硫黄酸化物時間許容排出量（m <sup>3</sup> N／h）	120
使用燃料硫黄含有量（%）	0.4以下
備考 使用燃料硫黄含有率とは、排煙脱硫装置の効果及びガス混焼等を総合した硫黄含有率の計算値（重油換算値）をいう。	

## 2 窒素酸化物排出基準

施設名	協定値 ( $\text{cm}^3/\text{m}^3 \text{N}$ )	換算酸素濃度 (%)
1号ボイラー	160	4
2号ボイラー	200	4
3号ボイラー	160	4
4号ボイラー	300	6
6号ボイラー	170	6
スラッジ焼却炉	225	12
石灰焼成炉	200	15
備考		
<p>1 窒素酸化物濃度の測定は、大気汚染防止法(昭和43年法律第97号)に定める方法又は日本工業規格に定める自動分析記録法によるものとする。</p> <p>2 窒素酸化物濃度は、0°C1気圧の状態に換算した排出ガス1m<sup>3</sup>当たりのものとする。</p> <p>3 窒素酸化物濃度については、次の式により酸素濃度による補正を行った値とする。</p> $\text{換算窒素酸化物濃度} = C_s \times \frac{21 - O_n}{21 - O_s}$ <p>C<sub>s</sub> : 窒素酸化物の実測値(<math>\text{cm}^3/\text{m}^3 \text{N}</math>)  O<sub>n</sub> : 換算酸素濃度(%)  O<sub>s</sub> : 排ガス中の酸素濃度(%)</p>		

## 3 ばいじん排出基準

施設名	協定値 ( $\text{g}/\text{m}^3 \text{N}$ )	換算酸素濃度 (%)
1号ボイラー	0.20	O <sub>s</sub>
2号ボイラー	0.07	4
3号ボイラー	0.20	O <sub>s</sub>
4号ボイラー	0.15	6
6号ボイラー	0.10	6
スラッジ焼却炉	0.08	12
石灰焼成炉	0.30	15
備考		
<p>1 ばいじん量の測定は、大気汚染防止法(昭和43年法律第97号)に定める方法又は日本工業規格に定める自動分析記録法によるものとする。</p> <p>2 ばいじん量は、0°C1気圧の状態に換算した排出ガス1m<sup>3</sup>当たりのものとする。</p> <p>3 ばいじん量については、次の式により酸素濃度による補正を行った値とする。</p> $\text{換算ばいじん量} = C_s \times \frac{21 - O_n}{21 - O_s}$ <p>C<sub>s</sub> : ばいじん量の実測値(<math>\text{g}/\text{m}^3 \text{N}</math>)  O<sub>n</sub> : 換算酸素濃度(%)  O<sub>s</sub> : 排ガス中の酸素濃度(%)</p>		

別表第3（第5条関係）

排水水の排出基準

項目	協定値
水量 (m <sup>3</sup> /日)	200,000
水素イオン濃度	5.8～8.6
化学的酸素要求量 (mg/ℓ)	120
浮遊物質 (mg/ℓ)	80
色度 (度)	150
ほう素及びその化合物 (mg/ℓ)	230
アンモニア, アンモニウム化合物, 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/ℓ)	100
備考 1 測定方法は、水質汚濁防止法(昭和45年法律第138号)に定める方法とする。 2 色度の測定方法は白金コバルト法とし、測定値の評価に当たっては±20%までは誤差とする。	

別表第4（第8条関係）

1 騒音の基準

昼間 午前8時から 午後7時まで	朝 午前6時から 午前8時まで 夕 午後7時から 午後10時まで	夜間 午後10時から 翌日の午前6時まで
55dB(A)以下	50dB(A)以下	45dB(A)以下
備考 測定方法は、騒音規制法(昭和43年法律第98号)に定める方法とする。		

2 振動の規制基準

昼間 午前8時から 午後7時まで	夜間 午後7時から 翌日の午前8時まで
60dB以下	55dB以下
備考 測定方法は、振動規制法(昭和51年法律第64号)に定める方法とする。	

別表第5（第9条関係）

悪臭の規制基準

規制箇所	協定値
敷地境界	臭気指数15
備考 測定方法は、三点比較式臭袋法(平成7年9月13日環境庁告示第63号)とする。	

別表第6（第12条関係）  
ダイオキシン類の排出基準

施設名	協定値			
	排出ガス (ng-TEQ/m <sup>3</sup> N)	ばいじん (ng-TEQ/g)	燃え殻 (ng-TEQ/g)	排水 (pg-TEQ/l)
6号ボイラー	0.1	3	3	
スラッジ焼却炉	1	3	3	
一般ゴミ焼却炉	10	3	3	
パルプ製造用塩素漂白施設				10

備考

- 測定方法は、ダイオキシン類対策特別措置法（平成11年法律第105号）に定める方法とする。
- ダイオキシン類の量は、ダイオキシン類対策特別措置法第8条第2項第1号の規定により2・3・7・8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算したものとする。
- 排出ガス中のダイオキシン類の量は、0℃1気圧の状態に換算した排出ガス1m<sup>3</sup>当たりのものとし、次の式により酸素濃度による補正を行った値とする。

$$\text{換算ダイオキシン類の量} = C_s \times \frac{21 - O_n}{21 - O_s}$$

$C_s$  : 排ガス中の実測値(ng-TEQ/m<sup>3</sup>N)  
 $O_n$  : 換算酸素濃度 12%  
 $O_s$  : 排ガス中の酸素濃度(%)